

大学が、とまらない。

2020年、新しい学びが始まる。

HIT.E ▶ 2024

広島工業大学

大学が、
とまらない。

HIT.E ▶ 2024

専門力と人間力、そして社会実践力を備えた
次世代の技術者を育てるために。

新教育プログラム「HIT.E ▶ 2024」

社会構造が急速に、かつ大きく変化するなか、
これからの予測困難な社会を支える人材には、
他者とともに自ら切り拓き発信していく、あらゆる環境の変化に対応できる力
が求められています。創立から約60年にわたり、本学がめざし続けてきた
「社会に貢献できる技術者の育成」を叶えるために、
2016年から、確かな[専門力]、社会人としての基礎となる[人間力]を
養成しています。さらに2020年からはこれまでの教育に加え、
4年間をかけて行う教育改革を通して、
自ら課題を発見し仲間とともに解決していく[社会実践力]も
備えた、この先の社会で真に活躍できる
技術者を育てていきます。



[社会実践力]を形づくる、
未来を拓く3つの力。

近年求められている、先行きの見えない未来を切り拓く力を身につけるため、
新たに3つの力に着目して次世代の人材を育成していきます。

ともに課題を発見し解決する力

ACT &
THINK +ING

実社会での
▶ 活用例 ◀
社会のニーズを
予測しながら課題を発見し、
新たなイノベーションを
他者とともに実現する

実社会では、答えが決まっていない課題に対して仲間とともに協働し、
試行錯誤しながら主体的に取り組む実践的行動力が
求められています。また、「今」に満足せず広くアンテナを張って
課題を発見する力、その課題を解決するための方法やプロセスを
考え抜く力を磨くことで、新しい価値を生み出す
創造的スパイラルが身につきます。

地域や国際社会で活躍できる力

GLOCAL +ING

実社会での
▶ 活用例 ◀
地域の企業で、
海外への発信・事業展開の
キーパーソンとして
活躍する

情報技術の進歩は、
距離によって隔てられていたコミュニケーションの質を変え、
世界と地域、そこにある縮尺という概念も変えました。
それは、あらゆる場面でグローバル化が進み、ローカルであっても高い語学力と
他国の文化を理解し受容する教養の深さを求められる時代の幕開けを意味します。
グローバルな視点で物を考えつつ、必要に応じてローカルで行動する
新しい人材が求められています。

学び合い成長し続けられる力

PROGRESS +ING

実社会での
▶ 活用例 ◀
最新の情報・技術を
常に学びながら
チームリーダー的技術者
として活躍し続ける

さまざまな新しい技術が生まれ、環境やツールが変化していくこれからの社会では、
最新の情報や知識、リテラシーについて常にアンテナを張りつつ
異なる立場の人と連携しながら同じ課題を解決し、学び成長していく、
自己研鑽力がますます必要とされています。

自ら課題を発見し、
他者とともに解決していく

社会実践力

ともに課題を発見し解決する力

ACT & THINK +ING

カリキュラムを一新

3つの領域の新カリキュラムで、学生の「主体的な力」を育む。

「HIT.E ▶2024」では、大学から社会への持続性をもたせ、低学年時だけではなく、リベラルアーツ教育科目を4年間で履修する仕組みを導入しています。また教養教育と専門教育の融合をめざして、「リベラルアーツ教育科目領域」「社会実践教育科目領域」「専門教育科目領域」の3つの領域でカリキュラムを再構築します。社会実践教育科目領域では、初年次から学科の学びに基づいた社会と繋がるテーマについてグループで課題に取り組み、自らのキャリアを見つめるとともに、高いコンピテンシーと倫理観を持った技術者を育成します。

HIT.E ▶2024



社会とつながる実践的学び

実社会とつながる課題に、
グループで取り組む。

1年次の前期から2年次の後期まで、全てのクォーターで開講する「社会実践科目」では、約20名のグループでの履修を基本とし、協働して課題に取り組みます。テーマとして取り上げるのは、それぞれの学科の学びと社会にかかわる課題。社会とつながる実践的な学びとして、多様な人と目標に向けて協働し、自ら課題解決を進める経験を重ねます。教員全員が担当し、一丸となって学生をサポートします。



見えない
未来を切り拓く
人材を育てる教育プログラム

HIT.E ▶2024

広島工大は、「専門力」[人間力] [社会実践力]を養います。

技術者にとって大きな力になるのは、深い専門知識だけではありません。専門外の分野への理解と思考力、その知識の応用も含めた「専門力」。社会人としてのマナーや倫理観を踏まえ活躍する基礎となる「人間力」。自ら課題を発見し、他者とともに解決をはかる「社会実践力」。そうした次世代の技術者に必要とされる、「見えない未来を切り拓く力」を持った人材を育てる新しい教育プログラムを展開します。これから始まる広島工大の様々な取り組みに、ご期待ください。

地域や国際社会で
活躍できる力

GLOCAL +ING

産官学連携

地域や企業の課題解決に
在学中から取り組む。

住民自らの的確な避難判断を支える自然災害減災情報システムの開発や機能性食品の開発など、地域団体や企業からの共同研究などにかかわることによって、各学科で学んでいる専門知識が、実社会でどのような課題解決につながっているのかを学生に体感させる機会を設けます。地域の「今」を知るとともに、技術者として社会に貢献するための方法を模索することができます。



学び合い
成長し続けられる力

PROGRESS +ING

発展トラック

一歩先の学びに挑戦できる、認定システム。
認定者は特待生選考対象に。

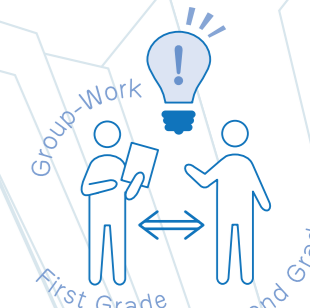
専門力と人間力を積み上げている学生に、さらに進んだ学びの機会を与える認定システムです。基準以上の成績とHITポイントを取得した学生は「発展トラック」に認定されます。4年次には大学院の科目を履修できるなど、より幅広く授業や講座を履修し、技術者としての専門知識を深めることができます。授業料や施設設備資金が减免される特待生の選考対象にもなっています。



年次混成の学び合い

協働力を高める、異なる年次の
学生同士での学び合い。

1年次・2年次の学生が同一グループで課題に取り組むなど、年次混成での学び合いを導入します。異なる立場の人と連携しながら同じ課題を解決していくことにより、自分の意見を分かりやすく伝える発信力、相手の意見を引き出す傾聴力、意見や立場の違いを理解し尊重する柔軟性、チームの中で自分どのような役割を果たすべきか理解する状況把握力などを磨きます。



HITチャレンジ

学生の挑戦を支える、自主企画
プログラム支援制度。

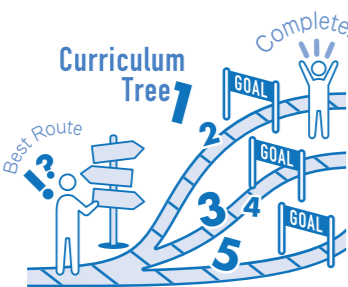
在学中に「やりたいこと」の企画を自主的に立て、審査の結果プログラムが採択されれば、最高50万円の活動費が支給されます。オリジナルの電気自動車を製作してレースに出場、荒廃した森林を調査し子どもたちが自然体験できる環境づくりなど、2018年度は5件のプログラムが採択され、学年や立場を越えて学生たちが設定した目標に取り組んでいます。



カリキュラム・ツリーとナンバリング

確実な学修成果を達成するために、
授業科目の関連性・順次性を明示化。

教育課程の体系的な学びを確実にするために、学びの全体像を明らかにします。順次性や関連性を重視した授業科目を年次配当し、それを系統的に表示したカリキュラム・ツリーを作成。さらに、学科の各科目に体系的理解を助ける数字をナンバリングします。このカリキュラム・ツリーとナンバリングの利用により、学生一人ひとりが学びの全体像を理解しながら、各自の目標に向けて着実に学んでいくことを可能にします。



大学院連携プログラム

大学院までを意識した
実践的思考力を身につける。

1年次から、各学科の学びと実社会を結びつける講義を導入することにより、学びを社会でどう活かすべきか、自らの将来像も描きながら専門知識を深めていきます。また、教養科目は1・2年次を対象とするもの、3・4年次を対象とするものを分けて設定し、段階的に幅広い教養を身につけられるようにしています。大学院の講義の先行履修ができるシステムも導入し、実践的な思考力を育てます。



専門分野への深い理解と幅広い知識、
柔軟な思考力を備えた

専門力

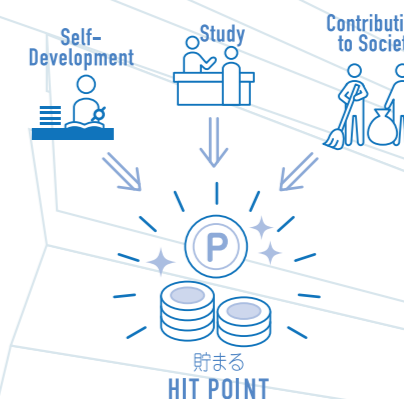
社会人として
活躍するための基礎となる

人間力

HITポイントを導入

課外活動の数値化で「人間力」向上をめざす。

心豊かな生活を提案し形成できる技術者になるためには、専門知識だけでなく、社会と環境に配慮できる倫理観や実践力が必要です。そうした社会で必要とされる「人間力」を向上させるため、社会貢献活動、自己啓発活動などの自らの成長につながる行動を、HITポイントとして数値化。ポートフォリオシステムに記録していくことで、人間力向上の状況を測る指針とし、学生の成長を促します。



ポートフォリオ オリジナルシステム HITPO (ヒトポ)

PDCAサイクルを支える、学生ポートフォリオシステム。

履修計画や課外活動、将来設計、就職活動など、大学で経験するさまざまな活動について、時系列で記録するシステムを導入しています。記録された情報はいつでも確認ことができ、計画・実行・評価・改善のPDCAサイクルを支え、学生自身がこれからの方向性を決めて成長していく指針となります。この情報は教職員とも共有でき、目標を共有し、きめ細かいサポートを可能にします。



》 学長あいさつ ‹

見えない未来を切り拓く技術者を生み出す、新教育プログラム「HIT.E ▶2024」


広島工業大学では創立から約60年にわたり、学生一人ひとりに寄り添いながら、技術だけでなく自然や環境にも目を向けるなど、幅広い視野をもって社会に貢献できる倫理観のある技術者の育成に取り組んでいます。近年では、専門的な知識だけでなく、変化し続ける社会を的確に捉え、その時々々のニーズに合わせた技術の活用方法を提案し実行できる、真に社会に貢献できる技術者が求められるようになってきています。そこで本学は、2020年4月、大きく変化していく社会で未来を切り拓くことができる技術者を育てる新教育プログラム「HIT.E ▶2024」をスタートさせます。

[専門力] [人間力] [社会実践力]を養成するこの教育改革では、学生が能動的に学び、経験を重ね、自ら成長し続けられるようになることに重点を置いています。確かな[専門力]の養成では、学生自身がカリキュラム体系を理解し、自らのキャリアを意識した履修ができるよう工夫しています。豊かな[人間力]の養成では、学生のさまざまな活動への積極的な参加や自ら企画・立案した新しいことへの挑戦への支援などを行い、幅広い活動への取り組みを促します。また、課題を発見し協調しながら解決していく[社会実践力]の養成では、学年の枠を越え実社会に関わる課題をグループで解決する体験をし、社会で活躍できる総合的な力を養います。このような経験を積み重ねることにより、広く社会を知り、先行きの見えない時代において、課題を発見し解決策を提案、実行できる技術者を育成していきます。

これからも地域に根ざした大学として、企業や社会と手を携えながら、グローバル化時代において地域社会に貢献できる人材の輩出に力を注いでいきたいと思えます。



広島工業大学
学長
長坂 康史
専門：情報学




A.D.2020
IoTの未来がここに


2020年4月 開設予定 (届出認可申請中)


誕生 情報コミュニケーション学科 (仮称)


人と人をつなぐ、新しいコミュニケーションを学ぶ。

情報化社会が進む中、人と人のコミュニケーションの形が大きく変わろうとしています。距離や関係に縛られず、本当に必要な「つながり」へ簡単にアクセスすることができる社会。その実現のためには、コミュニケーションの「仕組み」をデザインする人材が不可欠です。広島工業大学では、この新しい社会のニーズに応えるため、情報技術を「活かす力」を身につける学科を新設します。


 経営情報システム


 データサイエンス


 ソーシャルメディア


 コミュニケーション

※記載の内容は現在計画中の予定であり、今後変更になる可能性があります。

響きあう4学部12学科、そして大学院。

工学技術の力で未来を豊かに。



大学院	工学系研究科 (博士前期課程)	電気電子工学専攻 機械システム工学専攻	建設工学専攻 情報システム科学専攻	環境学専攻 生命機能工学専攻	工学系研究科 (博士後期課程)	知的機能科学専攻
------------	--------------------	------------------------	----------------------	-------------------	--------------------	----------

学校法人
鶴学園

広島工業大学

Hiroshima Institute of Technology

工学部 | 情報学部 | 環境学部 | 生命学部 | 大学院
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL.082-921-3121 (代表)

